

プラスチック製包装材料の新たな循環型モデル構築に向けて取り組みを開始 ～廃棄資材を再生して化粧品容器へ～

株式会社アルビオン(本社:東京都中央区、代表取締役社長:小林 章一、以下「アルビオン」)は、株式会社リファインバースグループ(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:越智 晶、以下「リファインバース」)、三菱ケミカル株式会社(本社:東京都千代田区、代表取締役:下平 靖雄・福田 信夫、以下「三菱ケミカル」)、日本ポリプロ株式会社(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:飯島 要、以下「日本ポリプロ」)の資源循環型事業に参加し、自社の廃棄資材から新たな化粧品容器へ再生する取り組みを開始します。

背景

アルビオンは、持続可能な未来に向けたものづくりに一貫して取り組んでいます。プラスチック製容器やパッケージ包材については、これまでリサイクル材料や植物を原料としたバイオマスプラスチックを優先的に採用し、容器の薄肉軽量化など地球環境への負荷低減に向けて様々な容器開発に努めてまいりました。また、自社「RECYCLE PROJECT」を通じて店頭から回収された容器を、ミニフォトフレームやオリジナルヘアクリップへ再生するなど、従来廃棄物とされたものを資源として再利用することにも取り組んでいます。

この度、リファインバース、三菱ケミカル、日本ポリプロが構築する循環型モデル事業に参加し、廃棄資材から化粧品容器をつくる新たな事業に取り組めます(図1)。化粧品容器は、容器メーカーから納品される際、キズ防止のため緩衝材や、埃の混入を防ぐためのポリ袋などで梱包されています。これらの梱包資材は、これまでは廃棄物としてサーマルリサイクル※1されていましたが、今回の取り組みの第一歩として、この緩衝材が化粧品容器の材料として再生されることとなります。

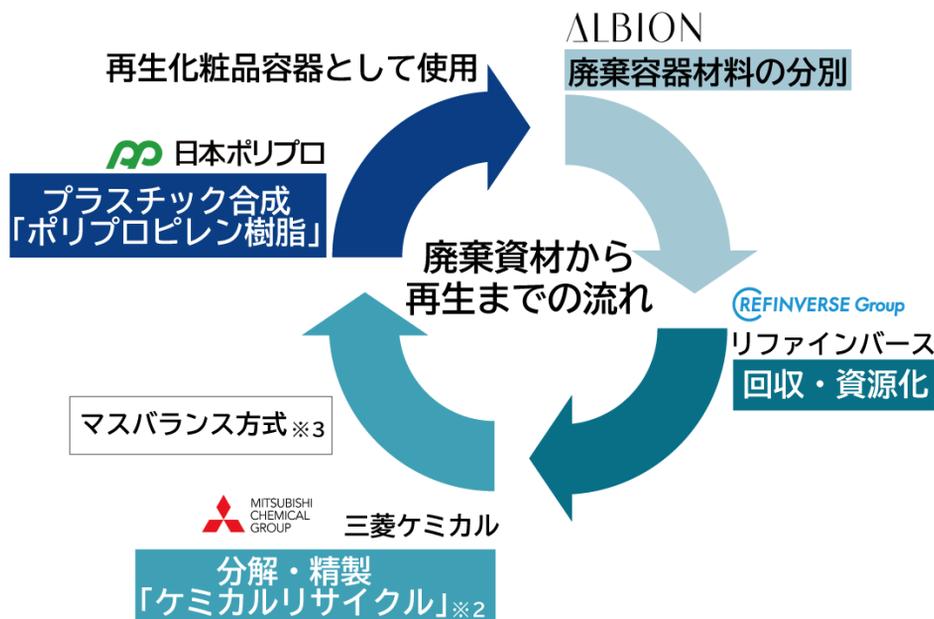


図1 新たな循環型モデル

※1 サーマルリサイクル
廃棄物から熱エネルギーを回収すること。ごみの焼却から得られる熱は、ごみ発電をはじめ、施設内の暖房・給湯、温水プール、地域暖房等に利用されている。

※2 ケミカルリサイクル
プラスチック廃棄物をモノマーなどのプラスチック原料レベルにまで分解し、新しいプラスチックに作り替えて再利用するリサイクル方法。

※3 マスマランス方式
原料から製品への加工・流通工程において、ある特性をもった原料(例:バイオマス割り当て原料)がそうでない原料(例:石油由来原料)と混合される場合に、その特性をもった原料の投入量に応じて、製品の一部にその特性の割り当てを行う手法。

今後の展開

年内を目処に、この再生プラスチックを容器に使用した新製品を発売する予定です。今回の事業を通じて、廃棄資材が資源として新たな商品に生まれ変わるという循環型のものづくりが一層推進されることとなります。

今後とも、アルビオンは高級化粧品のパッケージとしてふさわしいデザイン性、使用性、品質を守りながら、ステークホルダーの皆様と連携しサステナブルな化粧品開発に取り組んでまいります。

■参考資料

株式会社リファインバースグループ	https://r-inverse.com/
三菱ケミカル株式会社	https://www.mcgc.com/group/outline/mcc/
日本ポリプロ株式会社	https://www.j-polypropylene.com/

アルビオン 店頭回収システム「RECYCLE PROJECT」

<https://rashisa.albion.co.jp/sustainability/value/recycle/>